

飯伊地区 産業経済動向

No.467 2018/2
(30. 3. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,528	枚	△	9.4 %	△	5.0 %
	金額	4,262,385	千円	△	18.8 %	△	18.5 %
うち不渡発生状況	枚数	1	枚	(前月 8 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	223	千円	(前月 2,534 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	8	件	(前月 8 件)		(前年同月 4 件)	
	飯伊	0	件	(前月 1 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(1月)		52	戸		8.3 %	△	7.1 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(1月)		1.63	倍	(前月 1.69 倍)		(前年同月 1.51 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,356	台		23.7 %	△	3.5 %
	中古車	530	台		25.6 %	△	2.2 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (1月)	新車	3,775	台		5.0 %		6.1 %
	中古車	703	台	△	20.5 %		20.0 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	97,031	台	△	6.8 %		1.7 %
	出	97,803	台	△	4.7 %		1.6 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	65,596	台	△	6.7 %		4.6 %
	出	62,695	台	△	2.6 %		2.7 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	12,594	台	△	4.1 %		0.6 %
	出	13,199	台	△	1.5 %		2.7 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	32,233	台	△	6.6 %	△	1.2 %
	出	31,143	台	△	4.7 %	△	2.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		159	件		18.7 %		0.0 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		10	件	(前月 3 件)		(前年同月 15 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,162	人	△	13.3 %	△	1.3 %
	飯田～名古屋	16,857	人	△	3.7 %		1.5 %
	飯田～長野	8,467	人		1.2 %	△	1.9 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,003	人		6.7 %	△	5.6 %
	右回り	2,979	人		4.2 %	△	6.9 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに行っています。



100%植物性油(インキ)
[エチレンラミネーション] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

2月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス29.6で、前月から10.2ポイント上昇。翌月予測はプラス34.4で、前月から8.9ポイント下降している。

電気、精密機械器具の売上は、前月比やや増加～増加。一部に前年比も増加との声が聞かれ、こうした業者では景況感も好転している。半導体、液晶向け部品の受注の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～やや増加との声が多い。産業機器や医療機器向け部品の受注の前月比は、増減まちまち。やや減少との声も聞かれるが、「3月決算で多少動きが悪くなった」といったことが理由という。前年比は増加している業者が多い。建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも横ばい。自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声が寄せられた。小型電磁機器の販売の前月比は、業者により増減分かれる。一部に前年比も減少との声も聞かれたが、こうした業者でも景況感の悪化には至っていない。FA関連モーターの販売は、前月比やや増加、前年比も増加しており、景況感も好転との声。光学機器の受注は、前月比、前年比ともに増加、先行きも上向きとの声が聞かれた。「長期の注文を出す客先が増加している」という。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も良好との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比増加との声が多い。水引製品の販売の前月比は業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。「値上げに取り組んでいる」などの声が聞かれた。漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声が聞かれた。「2月も寒波の影響等で野菜価格が安定しない。積極的に販売することができない状況だった」という。

建設業

2月の建設業の景況DIは、マイナス18.8で、前月から3.4ポイント下降。翌月予測DIは、マイナス35.3で、前月から27.6ポイント下降した。

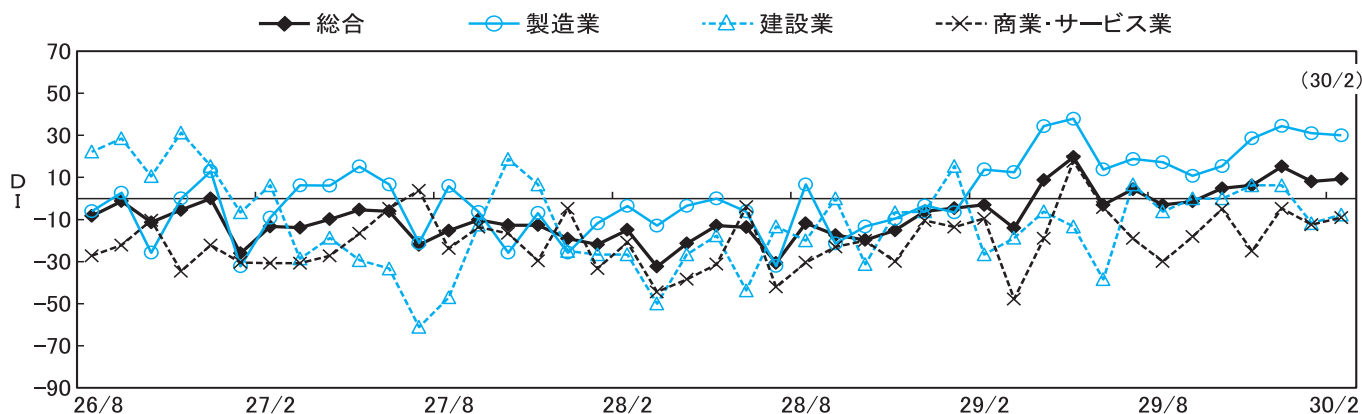
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.1億円で、前月比は14%減少、前年比は67%増加している(2月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばい。複数の業者から前年比はやや増加との声も聞かれたが、景況感が好転した業者は見られず、却って悪化した業者が複数見られた。

当地区の1月の住宅着工戸数は52戸。前月比8%増加、前年比は7%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「大型工事が終わってくるが、続く仕事の目途があまりない」「新築住宅はまらず」などの声。

商業・サービス業

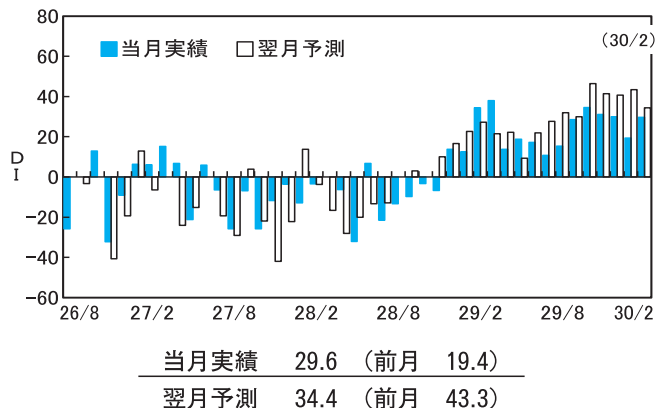
2月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス18.8と、前月より16.2ポイント上昇。翌月予測DIも、マイナス6.3で、前月より3.7ポイント上昇している。食料品の売上は前月比やや減少。一部に前年比はやや増加との声も。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加との声。電化製品の売上は、前月比、前年比共にやや増加、「工場関連は安定して順調な売上がキープしている」などの声が聞かれた。OA機器の売上は、前月比、前年比共に増加との声。衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少。娯楽用品の売上は前月比、前年比共にやや減少。先行きも弱含みという。土産物関連の売上は、前月比やや増加、一部に前年比減少との声が聞かれ、景況感分かれる。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比24%増加も、前年比は4%減少。1月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比5%増加、前年比も6%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比増加、前年比やや増加との声が聞かれた。市内料理店の売上は、前月比、前年比ともやや増加も、景況感の好転には至らないという。市内宿泊施設の売上は、前月比横ばいも、前年比はやや増加との声。昼神温泉の売上は前月比減少。雇用面で、「目下は現状維持だが、このまま花のシーズンに入ったら人手不足は免れない」との声が聞かれた。タクシーの売上は、前月比やや減少との声が寄せられた。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス29.6で、前月から10.2ポイント上昇。翌月予測はプラス34.4で、前月から8.9ポイント下降している。

SDGsと企業活動

政府は平成29年12月、「SDGsアクションプラン2018」を発表した。「SDGs」は国連が定めた「持続可能な開発目標」のことで、17のゴールと各ゴール毎に設定された合計169のターゲットから構成されており、例えば「SDGsゴール12（持続可能な生産・消費）」では、「生産と消費の過程全体を通して、天然資源や有害物質の利用及び廃棄物や汚染物質の排出を最小限に抑える」ことを掲げるなど、多くのゴールで企業の参加が求められている。

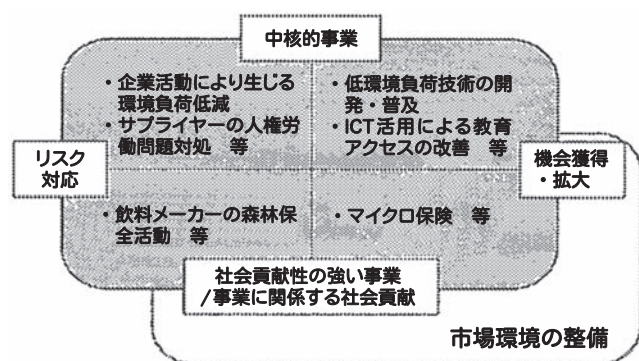
図1 SDGs 17のゴール



（資料：国連広報センター）

下図は、（公財）地球環境戦略研究機関が、企業がSDGsに企業活動として取り組む際のアプローチを整理したもので、①低環境負荷技術の開発・普及や、ICT活用による教育アクセスの改善、サプライヤーの人権労働問題への対処といった中核的事業を通じた貢献、②伝統的なCSRとも呼ばれる寄付やボランティアといった社会貢献に分かれ、それらが各々③ビジネス機会の獲得・拡大の側面と、④サプライチェーン上

図2 SDGsの本業化のための企業活動の整理図



で起こる人権侵害や環境破壊、腐敗などが、経営を揺さぶる問題にまで発展するケースが増えていることへの対応といったリスク対応の側面があるという。また、⑤規制や基準といったルールその他、産業界の取組みを先導するような規範、各種イニシアチブに参加するなど、持続可能性に資する企業が勝ち残っていくための市場環境の整備に関わっていく行動も求められているとしている。

住友化学では、温暖化対策、環境負荷低減等に貢献する自社の製品や技術を認定し、その開発や普及を推進することにより、SDGsの達成等、サステナブルな社会構築への積極的な貢献や情報開示を充実させている。例えば、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ベルヴィオ」は、「ゴール7（エネルギー）」と「ゴール13（気候変動）」に該当する製品として認定され、長年培ってきた幅広い技術基盤を活用し、持続可能な社会構築するためのソリューションを提供することでSDGsの目標達成を目指している。

図3 「スミカ・サステナブル・ソリューション」に認定されたセパレータ



（資料：住友化学株式会社）

（図2以外の出典は、環境省「平成29年版環境・循環社会・生物多様性白書」）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比やや増加～増加。一部に前年比も増加との声が聞かれ、こうした業者では景況感も好転している。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。先行き製品価格の上昇を見込む声も聞かれた。雇用面で不足感を指摘する声は多い。設備面でも積極的な声が聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～やや増加との声が多い。前年比は増加との声が多く、「車載、スマホ向け増産継続」「需要拡大につき増産計画継続」「FPD関連良好」「IT関連は継続的に需要拡大。次年度に向けての増産計画がある」「高止まりの状況が続いている」「高め安定で今後もしばらくは進みそう」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。「アルミ、ステンレス」など原材料価格の上昇を指摘する声は多い。雇用面で「常に募集。不足が続く」「中途社員若干名採用。新卒複数名採用」などの声が聞かれたほか、設備面でも「数台予定」「実施。今後も実施予定」「生産増加に伴い投資予定。設備購入を検討」など積極的な声が多い。

産業機器や医療機器向け部品の受注の前月比は、増減まちまち。やや減少との声も聞かれるが、「3月決算で多少動きが悪くなった」「例年2、8月は売上減少。期末決算の会社があり棚卸の関係で品物の流れが悪い」といったことが理由という。前年比は増加している業者が多い。「材料納入業者には、仕事減少との声もある」といった声も聞かれるが、「底堅い動き」「受注量は引き続き高い状況がある」「取引先増産開始。順次

立ち上げていく」「市場は安定している」「新規顧客がある」「更に外注先を増やしたい」「溶接業者が手一杯。塗装業者も引き続き忙しい」「ロボット関連、半導体関連は忙しい」「短納期のものもあるが、1か月程度先行する発注が出ている」「3～5月に納期が集中している。前倒して加工しているため、仕掛在庫が増加」「新年度の様子見。中国市場の動向に関する情報が錯綜している。総じて現状維持」などの声が聞かれた。

「一般構造用圧延鋼材が一部値上がり。ステンレス材も1割方上昇予定」など原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声は多い。雇用面では当面現状維持との声が多いが、「不足。非正規社員で対応中」といった声や、「技能アップで対応力を向上させたい」といった声が聞かれた。設備面では、「機械導入予定」「機械入れ替え手配」「設備投資あり。今後も予定」「不足している。導入検討中」など積極的な声が少なくない。

建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも横ばい、「確定できていない案件もあるが受注は増加傾向。今のところ順調」など景況感的良好との声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないが、「例年年度初めは厳しいので不安材料はある」という。原材料、資材価格が「確実に上昇」しており、「価格転嫁できないかが課題」との声が寄せられた。

自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声が寄せられた。先行きも大きな動きは見込まれていないという。

小型電磁機器の販売の前月比は、業者により増減分かれる。一部に前年比減少との声も聞かれたが、こうした業者でも景況感の悪化には至っていない。先行き生産の上昇を見込む声も聞かれ、こうした業者では製品在庫も増加している。当月、原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声は多い。設備面で積極的な声がある。

FA関連モーターの販売は、前月比やや増加、前年比も増加しており、景況感も好転との声が寄せられた。「産業機械向け増加。車載向けは維持で推移している」といい、先行きの見通しも良好という。

光学機器の受注は、前月比、前年比ともに増加、先行きも上向きとの声が聞かれた。「長期の注文を出す客先が増加している」という。原材料価格が上昇基調にあるという。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も良好との声が寄せられた。「新規開発案件が急増」との声が聞かれた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比増加との声が多い。前年比は、業者により増減分かれる。「微減との声が多い中、チョコレートが好調の様子」「小型ラインの製品向けの受注が増加した一方、大型ラインの製品は少ない」「好調な製品がある」などの声が聞かれた。先行きは生産増加を見込む声が多い。「段ボール、運賃等の値上げが見込まれる」など原材料、資材価格の上昇の影響を注視する声が聞かれた。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

水引製品の販売の前月比は、業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。「新年度に向けた注文が入ってきている。正月飾り、縁起物とも昨年より少なく感じる」「売上は増加したが、比例して返品も増加」などの声。こうした中、「資材、運賃の値上がりもあって、製品単価に転嫁したい。販売が落ちても利益確保を優先したい」「値上げに取り組んでいる」

などの声が聞かれた。「水引コンテストがあった。『アクセサリーや特産品である干柿、和菓子等の魅力を引き立たせる商品』がテーマだったが、大いに期待したい。諦めずに希望を持って進んでいけば道は拓ける」「地元同業者に向けた展示会、工場見学会を実施したところがあった。同業間の協力の面でも有用だと思う」などの報が寄せられた。

漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声が聞かれた。「2月も寒波の影響等で野菜価格が安定しない。積極的に販売することができない状況だった」という。「今後、原料のみならず人手の確保も大きな課題」との声が聞かれた。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比やや増加との声が聞かれた。原材料価格が上昇したという。

印刷、出版関連の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が聞かれた。「先月の分が当月にずれ込み多少良い数字になった。しかし、価格競争は激しい」という。こうしたこともあって「価格競争に負けない効率の良い設備、人員で対応する力が必要」との声が寄せられた。

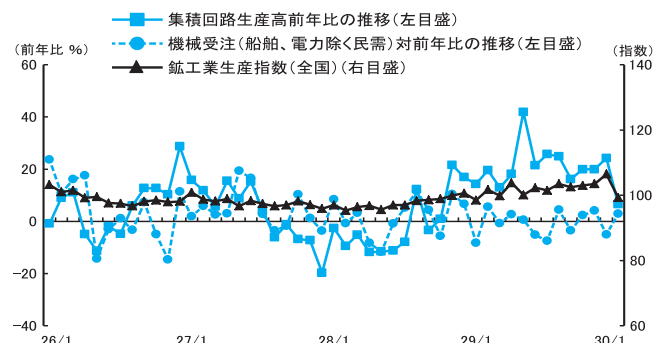
衣料品の受注は、前月比、前年比ともに増加、「例年に比べ受注量が多い」など景況感も好転との声が聞かれた。しかし、「素材、型の決定が遅れていて納期が短いため生産できる工場が少ない上に、アイテムによっては生産できない型もあり、また、秋、冬物の生産遅れが春、夏物の生産を圧迫している」など生産に支障をきたしているという。「技術者、ワーカー不測から国内生産が危ぶまれている。加えて運賃、材料費も上がっており、このまま最低賃金が上がるようだと廃業を考える工場もあるのではないか」との声が聞かれた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比増加も、前年比はやや減少との声が寄せられた。「年度末需要の駆け込みで仕事が溢れているとの声もある。しかし、4月以降は少な目ではないかとの声も聞かれる」との声が聞かれた。「原材料費は全体に上がり始めている。このことを説明するのだが、大手企業からはコストダウンの要請がある」という。雇用面では「中途採用者、新規卒者で複数名」など積極的な声。設備面でも積極的な声が聞かれた。

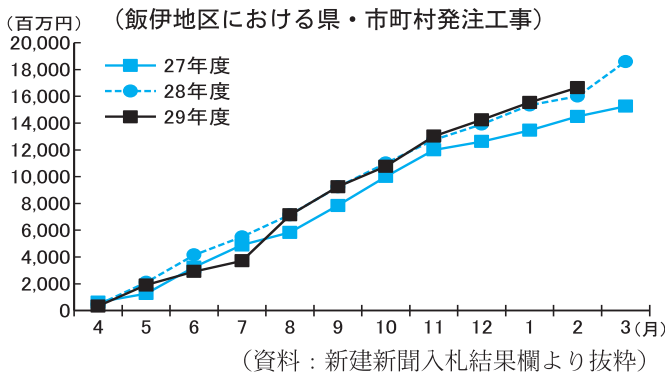
【企業からのコメント】

- ★材料費の高騰分は何とか客先に認めてもらいたい。
- ★来年の新卒確保に向けて活動を開始した。
- ★新規取引先への対応は順調。
- ★コストダウンの要求は厳しい。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



入札額累計の推移



官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.1億円で、前月比は14%減少、前年比は67%増加している(2月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部にやや増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばい。複数の業者から前年比はやや増加との声も聞かれたが、景況感が好転した業者は見られず、却って悪化した業者が複数見られた。「公共工事の発注が少ないため入札者が多く、くじ引きも多い」「大型工事は新年度の発注待ち」「リニア関連の用地、調査、設計の委託業務に事業費が割かれ、工事の発注件数や発注工事金額が例年より少なくなっているとの声が多く聞かれる」「例年通り低調な状態が続いている」「2、3月工期の現場も多い。4月以降の受注を目指す」「同業も4月以降の仕事確保に動いており、競争は厳しい」「年度末で忙しいはずだが、小規模なところはそうでもないとの声もある」などの声が聞かれた。

先行きに関し、不透明感はあるものの、「補正予算に期待」といった声が多く聞かれたほか、「国、県も発注がある。年度跨ぎの工事受注を目指す」「国の工事、特に三遠南信道の大型工事が発注になった」「数は多くはないが、公共工事の前倒し発注がある」「大型物件は減少。特別な工事に期待せず、手堅く地元で必要とされる仕事を受注していきたい」「繰り越し工事の受注はある」などの声が寄せられた。

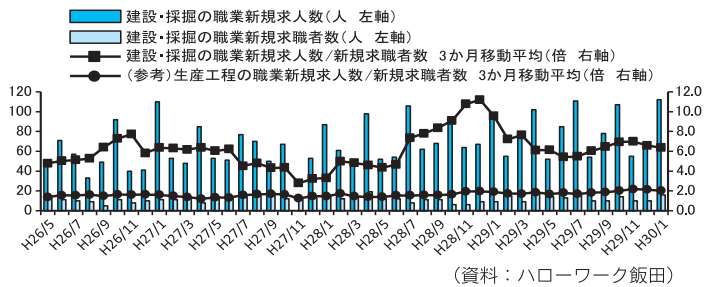
「材料費が値上がりしてきている」「燃料費などやや上昇」など資材価格が値上がりしているとの声が少なくない。

雇用面で、「施工職員募集」「技術者、営業、経理の募集」「不足気味」「外注に出す」などの声が聞かれたほか、「都会の施工管理技士の求人条件が良くなり、地方では中途採用や新卒採用がしづらくなっている。団塊の世代も70歳を迎え、徐々に第一線から離れつつあり、急激な技術者、技能者の不足が懸念される」との声が聞かれた。

建設・採掘の職業の、業新規求人数、新規求職者数 (ハローワーク飯田管内)

次のグラフはハローワーク飯田管内における「建設・採掘の職業」の新規求人数と、新規求職者数の推移を示したもので、26年3月以降を平均すると、68人の新規求人数があるのに対して、新規求職者数は12人となっている。新規求人数を新規求職者数で除した値の3か月移動平均の推移をみると、「生産工程の職業」に比べ建設・採掘の職業の倍率は高く推移している。業種を問わず人手不足が言われるが、建設業の求人難を垣間見ることができるだろう。

ハローワーク飯田管内 建設業 新規求人数、新規求職者数の推移



民需

当地区の1月の住宅着工戸数は52戸。前月比8%増加、前年比は7%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「大型工事が終わってくるが、続く仕事の目途があまりない」「一般工事の受注残があまりない」「新築住宅はまずまず」「リフォームは薄い」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者も少なくない。先行きも弱含みとの声が複数聞かれた。

資材価格が上昇傾向との声。また、雇用面では積極的な声が多く、「不足。増員予定」「不足。求人」「現状はまずまず。4月から高卒者、Iターン、中途採用で複数名」などの声が聞かれた。

建設資材

鋼材の売上は、「営業日数の関係」もあって前月比は増加。前年比はやや減少しており、「動向に大きな変化はなく、好調とは言えない。先月来どうにも動きに冴えがなく、なんとなくグズグズした感。前年は比較的堅調だったが、今年は良くない」という。鋼材価格は、「前月動きがあったが、当月は強含みながら横ばい」との声が聞かれたが、先行きは上昇を見込んでいるという。

生コンの売上は、前月比増加。前年比は、増加との声が多いが、一部に減少との声も。しかし、こうした業者でも「国の堰堤工事の打設が順調でまずまずの出荷量。別の工事でも動きが出たため先月より増加」など景況感はむしろ好転している。「主な出荷はリニア関連工事、浄水場、天竜川護岸、床固工事、砂防、治山工事、三遠南信自動車道、工場、ホテル設備に関わるもの。JR発注のリニア関連工事は前月より減少」との声が聞かれた。

骨材等の売上は、前月比、前年比ともやや増加。しかし、「先月よりは良くなったものの、決して良いとは言えない月」など景況感の好転には至っていない。一部に「次月以降は予定が入っている。少しでも取り戻せることを期待」など先行きは上向きとの声もある。雇用面、設備面で積極的な声も聞かれた。

【企業からのコメント】

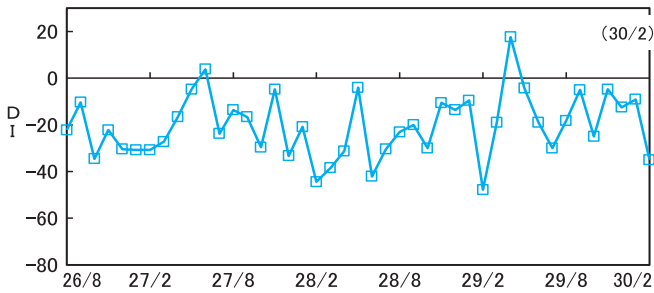
- ★補正予算も発注件数が少なく、先行き不透明。
- ★平成30年度予算が見えにくい。
- ★小規模工事は件数があり、多額の増収とはいかないが、人数に応じた仕事は確保。

住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

2月		○飯田建設事務所分	
新築	16件	(前年	9件)
増築	4件	(前年	2件)
		○飯田市役所分	
新築	20件	(前年	15件)
増築	3件	(前年	2件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-18.8	(先月 -35.0)
翌月予測DI	-6.3	(先月 -10.0)

商業

食料品の売上は前月比やや減少。一部に前年比はやや増加との声も。「野菜、食品、水産は増加。日配関連は減少」「雇用状況が良くなってきており、特に女性の来店頻度が減少している感。しかし、買い上げ点数、客単価が増加しており売上を押し上げている」などの声が聞かれた。今後の売上はやや増加の見通し。仕入に関し、「2月に入っても野菜類の価格が依然として高騰したまま。給食の納入等では利益を圧迫している」との声が聞かれた。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感に変化は見られない。

家事用品卸の売上は前月比、前年比共にやや増加。景況感の前月に比べてやや良くなってきており、今後もこの状況が続くとの声が聞かれた。2月は低温が続いたためか「防寒用品(カイロ等)はメーカーも完売してしまい、品切を発生させてしまった」との声が聞かれた。

電化製品の売上は、前月比、前年比共にやや増加との声。「地元企業の本社移転、道の駅、工場設備更新等の物件に支えられた。オリンピック特需ということではなく、上記物件関連の為、液晶テレビの売上が増加した」「冬季商品の在庫も順調に減少した」「工場関連は安定して順調な売上をキープしている」などの声が聞かれた。

OA機器の売上は、前月比、前年比共に増加、「大型案件の納品が完了。売上はあるが利益が伴わない」との声が聞かれた。「年度末、年度始めの需要期に向けて、予算取りの為の見積提出等の相談は頂けるが、全てが実行される訳ではない」という。

衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少、先行きは増加傾向との声が聞かれた。「買い控えや購入単価が減少。衣料品は厳しい」など景況感が悪化した業者も見られた。

娯楽用品の売上は前月比、前年比共にやや減少。先行きも弱含みとの声が聞かれた。

土産物関連の売上は、前月比やや増加、一部に前年比減少との声が聞かれ、景況感に分かれる。「国道153号線の通行量が減少しており、来店客数が減少」との声が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の**自動車新規登録台数**は、新車は前月比24%増加も、前年比は4%減少。中古車も、前月比26%増加も、前年比は2%減少した。1月の県全体の**軽自動車新規登録台数**は、新車は、前月比5%増加、前年比も6%増加。中古車は、前月比21%減少も、前年比は20%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比増加、前年比やや増加、「2月は自動車が一番動く時期だが、数年前と比較して盛り上がりが無くなった。売上は3月をピークに下がると思う」「自動車販売は、かつての様に新卒者向けに大変な活況になるという様な事が無くなってきている。依然として3月の車検到来数は多く、こ

の時期が一番売れる時期ではあるのだが、人気の中古車に異常な高値が付くというようになってきている」などの声が聞かれた。仕入、販売単価について「2月は台数、売上共にメインの中古車が減少したためにやや上昇」という。今後商品在庫の増加を見込んでいるとの声が寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は、「先月が悪かったが、当月は良かった」など前月比、前年比ともやや増加との声が聞かれた。しかし「製造業は良いみたいだが飲食はあまり良くない」など景況感の好転には至らないという。仕入単価は「野菜が高い。魚も安くならない」「3月より生ビール、瓶ビールの仕入値が上がる」など上昇基調にある一方、販売単価は「お客さまが値段に敏感になっており価格転嫁ができない」との声が聞かれた。

市内宿泊施設の売上は、前月比横ばいも、前年比はやや増加との声。雇用面で目下は「充足」しているものの、「今後はだんだん難しくなる」との声が聞かれた。

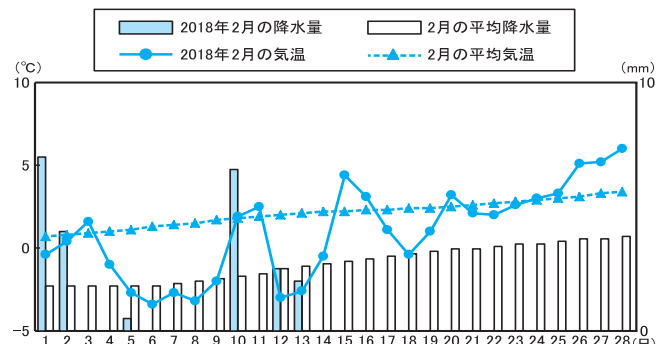
昼神温泉の売上は前月比減少。「今年度は『ふるさと一座』公演が無い為オフシーズンを迎えた。老人クラブのお客さまも、『ふるさと一座』公演のようなオプション部分がないため、例年と違ったスケジュールとなっている」という。雇用面で、「目下は現状維持だが、このまま花のシーズンに入ったら人手不足は免れない」との声が聞かれ、依然対策が見当たらない様子が窺える。

タクシーの売上は、前月比やや減少、「総合的な需要の伸びは感じられない。地域の総利用者も伸び悩んでいる」との声が寄せられた。「他産業での人材募集が多くなると、運輸関係への就労率が下がって今以上に人材不足になる。各社とも労働力の確保が重要になってくるのではないかと」「最低賃金の上昇、労働時間の短縮によって、より効率的な勤務を考えなくてはならないが、時間短縮と労働者の対価をどのようにバランスさせるか大きな問題」「タクシーの繁忙時間以外を、他の事業で生産性を上げていくことが課題」などの声が聞かれた。「業界は今後、世代交代による事業承継もクロスアップされるのではないかと」の声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★景気が上昇していると世間では云われているが実感がない。
- ★地元の行政機関は、地元からの調達を考えてほしい。
- ★就業規則の見直しを行う。
- ★廃業する者もいるが、開業する若者も目立ち潮目を感じる。
- ★事業承継を考えている。
- ★平昌オリンピックの話題でお客さまとの楽しい会話できた。特に今の時勢には大事なこと。

飯田の気温と降水量

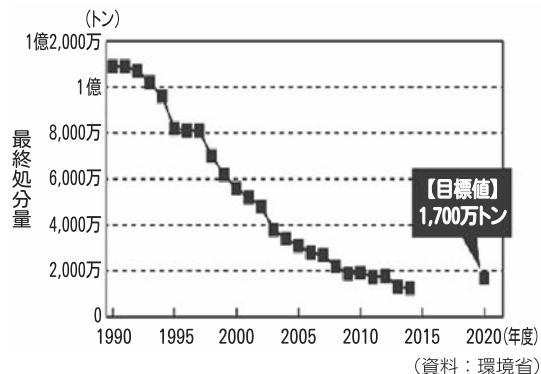


飯田市のごみに関する統計

環境省平成29年版環境・循環型社会・生物多様性白書では、「第三次循環基本計画では、発生抑制、再使用、再生利用、処分等の各対策がバランス良く進展した循環型社会の形成を図るために、物質フロー（物の流れ）の異なる断面である「入口」、「循環」、「出口」に関する指標にそれぞれ目標を設定しています」とあり、「出口」にあたる「最終処分量」については、平成32年度（2020年度）を目標年次として、1,700万トン（うち、産業廃棄物は1,275万トン）とされている。

環境への企業の取り組み姿勢が投資機関の評価や顧客の購買行動を左右するようになるなど、事業活動へ影響を及ぼし始めていると言われる中、当地域でも多くの事業者が、様々な環境マネジメントシステムを導入するなど、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））によるごみの減量に取り組んでおられる。そこで今回は飯田市の一般廃棄物に関する統計をご紹介します。

最終処分量の推移



●飯田市のごみの排出量

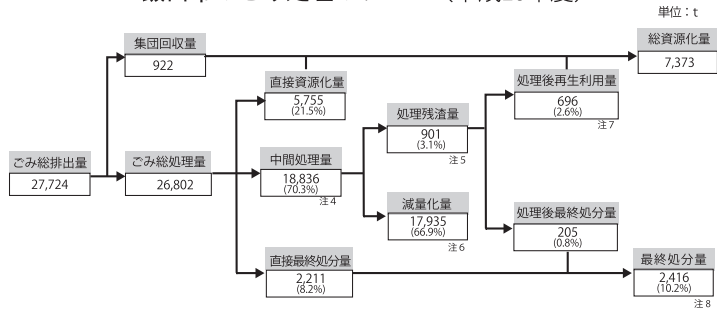
産業廃棄物以外の一般廃棄物を構成する「ごみ」は、家庭系ごみと事業系ごみに分かれ、市町村が処理責任を負っている。

「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 平成29年9月」によると、飯田市の平成28年度のごみの総排出量は27,724トンだったが、これが何らかの中間処理された後、最終的に7,373トンが資源化され、2,416トンが最終処分されている（し尿処理灰は含まない）。

平成24年度から28年度の過去5年のごみの排出量の推移をみると、市民によるごみ減量に向けた取り組みが進んでいることもあって、家庭系ごみは2,336トン減少した。一方、事業系ごみは、事業活動の活発化もあって671トン増加している。

また、平成28年度の事業系ごみを含めた「市民一人あたりが排出するごみの量」は733グラムとなっていた。

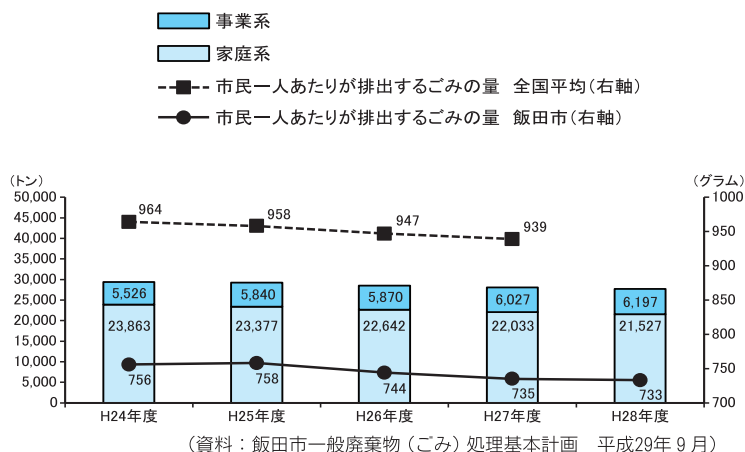
飯田市のごみ処理のフロー（平成28年度）



注1：数値は、四捨五入してあるため合計値が一致しない場合がある
 注2：（ ）内は、ごみ総処理量に占める割合を示す。
 注3：「直接資源化」とは、資源化等を行う施設を経ずに直接再生業者等に搬入されるもの
 注4：飯田市堆肥センターで堆肥化した家庭用生ごみの量を含む
 注5：森林クリーンセンターにおいて高熱処理して発生した残渣
 注6：森林クリーンセンターにおいて高熱処理して減量化された量
 注7：飯田市堆肥センターで堆肥化された量を含む
 注8：このフローにはし尿処理灰は含まれていない

(「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成29年9月）」を基に飯田信用金庫地域サポート部で作成)

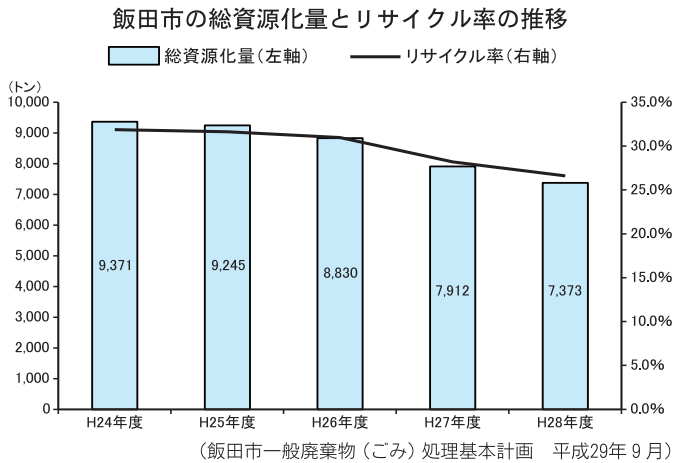
飯田市のごみ排出量（左軸）と 市民一人あたりが1日に排出する量（右軸）の推移



●飯田市の総資源化量とリサイクル率

古紙から再生紙を製造する、缶を鉄原料として使用する、ペットボトルから衣類を製造する、粗大ごみや不燃ごみから回収した鉄等を原料として使用するといった、排出されたごみをそのまま、または何らかの処理を行い、原料や燃料等として資源化されたごみの量を総資源化量というが、過去5年間の飯田市の総資源化量は徐々に減少している。また、ごみの総排出量に対する総資源化量の割合を示すリサイクル率も、過去5年間低下している。

もっともこれには、市内の大規模店舗に設置されたリサイクルステーションで資源物の店頭回収が行われるようになったことなどの影響が考えられる。例えばペットボトルの場合、全国の分別収集量に大きな変化は見られないが、飯田市が収集する量は毎年前年を大きく下回っている。



●ビンやペットボトルのリユースに係る環境負荷

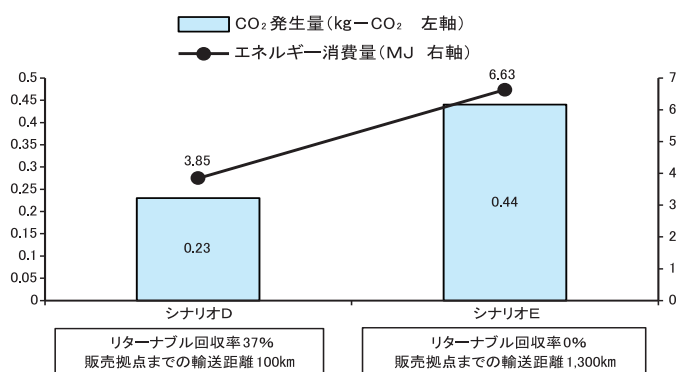
多少古いデータだが、平成21年8月の環境省「PETボトル等のリユースによる環境負荷分析結果について」では、ペットボトルやビン、を、リサイクルした場合とリユースした場合で、資源採取-原料生産-製品生産-流通・消費-廃棄・リサイクルまでのいわばライフサイクル全体で環境負荷がどのくらいあるかを試算している。

これはいくつかのシナリオを前提に試算されるが、リターナブルびん(清酒、焼酎900ml)の場合、いずれのシナリオでビンが再生利用されることを前提に、地域内でリユースされる場合(シナリオD)と、大消費地で消費され、地域内でリユースされない(シナリオE)場合を比較しており、消費エネルギー、CO₂排出量ともにシナリオDの方が小さいことが示されている。

ミネラルウォーター2L PETボトルの場合、いずれのシナリオでも現行のリサイクルは行われるとした上で、リユースされない場合(シナリオA)と、リユースされるが、使用済みボトルの回収率が高い宅配販売を広域でする場合(シナリオB)、地域を限定して宅配販売する場合(シナリオB-1)、同じくリユースされるが、使用済みボトルの回収率が低い店頭販売を広域でする場合(シナリオC)、地域を限定して店頭販売する場合(シナリオC-1)を比較している。これによるとリユースされた場合の環境負荷は、リユースされない場合(シナリオA)より小さいとは限らず、回収率や輸送距離によってはリユースされた方がむしろ環境負荷が高いことがあり得るとされている。

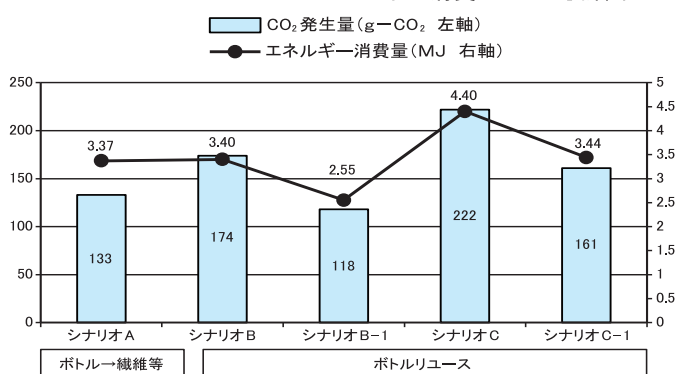
ごみの排出量を抑制する上でリデュース、リユースの重要性は当然だが、加えて地域内でリユースの循環を持つことが環境負荷を小さくする方策の一つなのかもしれない。(文責 飯田信用金庫地域サポート部 中村 達)

リターナブルビンのリサイクル、リユースシナリオ別エネルギー消費量とCO₂排出量



(資料：環境省「PETボトルのリユースによる環境負荷分析結果について(平成21年8月)」)

ペットボトルのリサイクル、リユースシナリオ別エネルギー消費量とCO₂排出量



(資料：環境省「PETボトルのリユースによる環境負荷分析結果について(平成21年8月)」)

流れ雲の目(22) 万年人手不足

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

日本では三月決算の会社が大多数を占めている、年度末はどここの企業も大忙しだ。特にここに来て景気の好循環の影響もありその忙しさたるや半端ではない状況にある。

どこの会社の社長も口癖のように、仕事はあるんだよね、でも人が足りないんだ、それに設備も不足してきている、と言っている。新規のお客さんで収益性の高い仕事も結構あり、引き合いも増加しているのだがね、その仕事を受ける訳にはいかないのだ、受けると今までのお客さんに迷惑をかけてしまうからね。残念なのだけど現状では断るしかないのだ、勿体無い話なのだけど、口を揃えて言う。テレビでも新聞でも働き方改革、残業の削減を推進しており、今年就職戦線も売り手市場だと騒いでいる。株価もそれなりに上がってきているし、2020年の東京オリンピック迄はこの景気の状態は続くと、殆どの社長は思っているのではないだろうか。このような経済環境の中で設備投資するのは今しかない、来年では遅いのではないかとこの声も多々聞こえてきている。

景気動向について私は何とも判断が出来ないし、大勢の社長の気持ちと同じように東京オリンピック迄は良いのではと思っはいるが、こればかりはどうなるか判りません。

ところであなたの会社では本当に人手が足りないのでしょうか？

実際の話、現在の仕事量に対して現有工数はどの程度不足しているのか明確に把握出来ていますか、そしてその穴埋め策はありますか。

至極当然のことを言えば、極力無駄を省き効率よく仕事を回しように尽きますが、それでは具体的にどうすりゃ良いのだよということになると、これが本当に難しいですね。

ここで他人様の様にチョット視点を変えて第三者的にあなたの会社を覗いてみましょう。

製造業に於いて、直接作業者と経理や人事庶務的な仕事をする間接部門があるはずですが、直接作業者と間接作業者の人数比率(直間比率)はどうなっていますか。

当然会社の規模によって違いはあるものの、同業他社と比べてあなたの会社の間接作業者の数が多いか少ないかは比較できると思います。

次に、間接部門の仕事の内、絶対に必要な作業、あった方がいい作業、無くてもよい作業と大きく三つに分けることができますね。絶対に必要な作業を省いて、無くても何とかなる作業とあった方がよい作業はどのくらいありますか。そこに掛けている工数は？

この非常事態では、削れるものなら後回しにしてでも直接作業にその人間を振り向けてみては如何ですか。間接部門の人も真面目に一生懸命作業をしている訳ですから、そう簡単に事が進むとは思えませんが、その振り分け作業は社長やそれに近い幹部しかできない仕事ですね。

三番目には、人間というものの特性を良く考えてみてください。どんな職場でも少し頭の回る人間ならこの忙しい最中に暇な顔をしてる人間は一人もいませんよね。時間が空けば必ず良かれと思ひ前向きに新しい仕事を自ら作り始めるものなのです。あればあったで役に立つデータや資料作成を始めるのです。そしてその資料を作成するために現場の意見を聞きに行ってみたり、実態調査をしたりするのです。確かにあれば役に立つ資料かもしれませんが、今、この時期に本当に絶対必要か？とも思える物もあるはずですが。本人は非常に前向きに仕事をしている訳ですが、会社全体の現時点での最優先課題、効率を考えると、今すぐ手をつけるべき仕事ももっとあるはずですが。個人最適と全体最適は時期や場面において違ってくるものなのです。社長の的確なその時点での判断で人材の有効活用をして行かないと、いつまでたっても人手不足は解消しません。

ある金属加工の会社の話です。業績も非常に良く先々も順調に推移すると思える内容なのですが、その社長は常に危機意識を持っており、直接部門の人員は補強していくものの間接部門は殆ど増強をしていません。特にすごいのは経理や人事の人間も現場の作業者として活用しており、午前中は間接部門の仕事をし、午後は現場作

業をしているのです。

社員もよく働き活き活きとした顔をしています、当然給料も賞与も同業他社と比較して結構良いみたいで定着率も高い数字が出ています。

人は自ら仕事を作り出す天才であり、優秀な人間であればあるほど暇にしてないで良かれと思って仕事を作り出す。その結果はといえば、良い場合もあるが悪い場合もある。個人の精神的な最適業務と会社全体の業績から見た最適業務とは違うからだ。全体の最適人員配置はトップ自らが指示をする事が必要、それが無い限りいくら補充しても人員不足は解消されない。

間接部門不要論 三十人以下の会社には間接部門は不要である、経理、人事、庶務の担当者は直接部門と併用できる。

これからの時代(人工知能を持つロボット時代)、指示待ち人間でなく創造型人間を必要とする時代にあえて逆行する様な事を書きましたが、くれぐれも誤解して欲しくないのは、人手不足に悩む製造業向けの目下の非常事態への対応についての話だということです。

今後は設備の合理化、無人化が必然的に進んでくるでしょう。

機械でできることはどんどん任せていかないと、高い人件費を増加させていく訳には行きません。創造性のある、既成概念に捉われない従業員が今後の主役になってくるでしょう。

今ここで従業員をどんどん増やしていくことが本当に将来役に立つのでしょうか？

今はその過渡期ですが、ある日突然、急激に変化していくと思われまます。大変困難なことです、企業が存続するために、その波に呑み込まれないような周到な準備と対策が必要です。

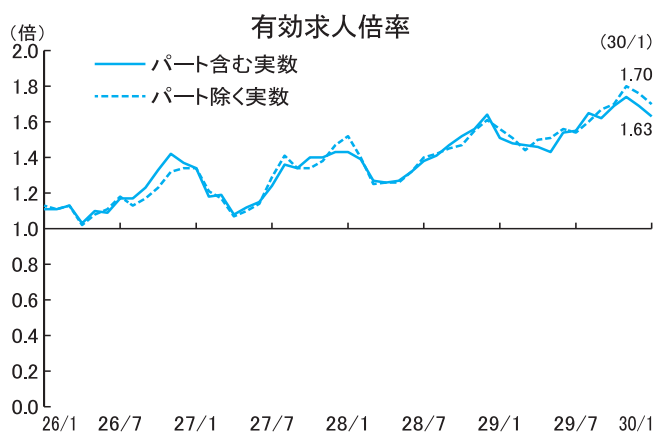
時代の変革の波が急激に大津波となり貴社に押し寄せて来るという覚悟はしておかなくてはなりません。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

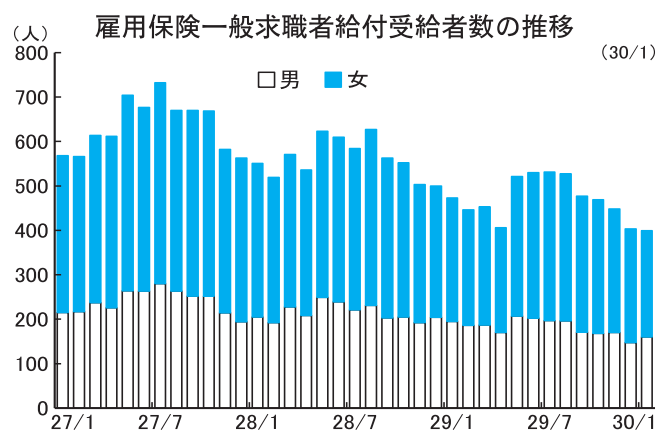
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課(飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132)まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



1月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.63倍と、前月から0.06ポイント下降。パートを除く実数も1.70倍で、前月から0.06ポイント下降している。



1月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は13人増加、女性は17人減少しており、全体では339人と前月から4人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

三遠南信地域交流たずねある記(1) 南信州地域にみる三遠

NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」が終わって

嶋田屋麴店 店主 井伊徳広 氏

三遠南信地域での相互交流の現場、またはその痕跡を訪ね歩く新シリーズ。

第1回は南信州地域から、NHK大河ドラマが大きな変化もたらしたと語る飯田市嶋田屋麴店の井伊徳広氏にお話をうかがった。

ー飯田井伊家について教えてください

飯田井伊家は松源寺(高森町)に逃れた井伊直親(亀之丞)と嶋田村(現松尾)代官塩沢氏の娘との間に生まれた吉直を祖とし、5代目の吉右衛門が飯田町に移って井伊を名乗り、麴屋を始めた。当家は明治10年にその本家から分家して麴屋の商売を引き継ぎ今に至っている(次頁系図)。ドラマでも取り上げられた直親より拝領の短刀は本家が所有している。松尾の塩沢家が現在のどの家にあたるのかは、今回聞いて回ったが未だに判明していないようだ。

麴屋はかつて最盛期に同業組合加盟の業者が35~36軒くらいあったと聞いているが、現在は飯田市に3軒となっている。



嶋田屋麴店 全景 (飯田市本町4丁目大横)

ー大河ドラマが始まるまでは

若い頃は我が家があるような系譜の家とは知らなかった。父や祖父からは聞いていなかった。ただ、同じく本町4丁目大横在住の原彰一先生(注1)から「君の家は特別な家だから」と言われ、飯田井伊家関係の系図をまとめてくれていた。平成13年5月に龍潭寺で執り行われた井伊直政公400回忌法要には、飯田井伊家からということで私が招かれた。その際に松田不秋(注2)・木村昌之(注3)両先生との出会いがあり、お付き合いが続いている。

放送年の前年(平成28年)の夏頃、飯田市観光課からNHK大河ドラマに取り上げられるという連絡を受けた。これまで歴史研究の先生方くらいしか承知していなかった(注4)飯田井伊家がそれから間もなく知れ渡るようになった。

ー大河ドラマが始まったらどうなりましたか

大型バスが店の前の道路に横付けされて大勢が訪れ、私が「俄かガイド」となって説明と応対に当たるなど生活が一変した。期間中大型バスが20台くらい、他に個人・グループの訪問もあった。ツアーコースには松源寺と当店、それに峯高寺(注5)が含まれた。大勢のツアーのときはグループを半分に分け、当店と峯高寺とで入れ替えて案内するようにした。

当店は午前中に麴の仕込みを行うので「対応は昼頃から午後にして欲しい」と旅行会社に申し入れてあり、午前中松源寺に立ち寄って昼以降にこちらに来るというパターンであり、殆どが日帰りだった。天気の良い日には店の前にテーブルを出し、甘酒などのサービスをした。

ツアーの歴史探訪との組み合わせでは、春はさくらんぼ狩りが多かったのが印象にある。また市内の桜巡りもあった。秋は紅葉やりんご狩りとの組み合わせだった。夏場は適当なものがないせいか、ツアー訪問がパタッと止まった。

《ドラマ放映中の入込み状況》

高森町産業課のまとめによると、松源寺では平成28年11月から30年1月までの間、ガイドまたは観光バス駐車場のいずれか利用があった件数（産業課経由）は1,203件。高森町では「バス乗車状況からバス・団体客で4.2万人、他の個人客が3千人以上」（観光課）と発表している。南信州観光公社では「12団体約320名を案内」（同社）とのことである。

—お店に来た方たちはどのような方ですか

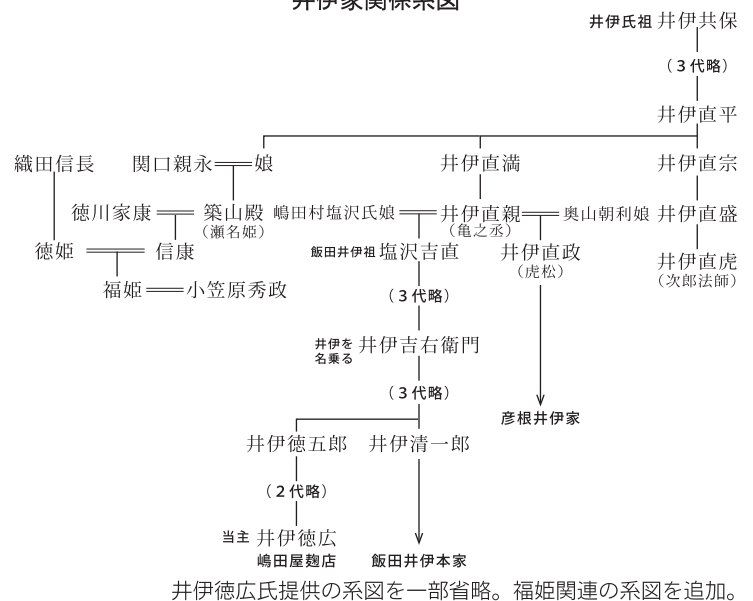
県外では圧倒的に浜松地域（遠州）が多かった。浜松市の旅行会社がツアーを組んだためと思う。東三河地域からは殆どなかった。また、名古屋駅集合のツアー募集も行われ3回来た。これには名古屋（尾張）方面のほか関西方面からの方も居たようだ。泊まりのツアーが少ないのは浜松地域が日帰りツアーに手頃な距離にあるためといえる。三遠南信道が全通していれば、もっと来ていたと思う。県内では上伊那、諏訪地区、松本辺りからで、北信・東信からは少なかった。

面白いと感じたのは、地域によって人柄や雰囲気が違うこと。名古屋方面の人はどんどん入り込んできて土産品をどかっと買ってさっさと出て行くという感じ。浜松地域からの人はこちらの話にじっと耳を傾け熟考しているという雰囲気だった。ある意味南信州の人々と似通ったところがあると感じた。



ご当主の井伊徳広氏

井伊家関係系図



井伊徳広氏提供の系図を一部省略。福姫関連の系図を追加。

— 1年を振り返ってどうでしたか

大河ドラマを機に、飯田井伊家の関係者が龍潭寺を訪問し、この間浜松地域に知人・友人ができた。松源寺はそれまで飯田井伊家をご存じないようであったが、放送期間中は来訪者対応に連携して当たった。彦根市からは彦根市立彦根博物館の学芸員ら3名の来訪を受けた。名古屋テレビの取材が入り、SKE 48の人ほかを店に迎えたこと（注6）も普通では起きないことだった。

大河ドラマが当家や関係する方々の歴史を掘り起こし、浜松地域など各方面との繋がりをつくり、広げてくれた。

注1 飯田市の郷土史家（1922－2010）。飯田市誌編さん室助言者・執筆員、飯田市美術博物館評議員・美術品等購入専門委員などを歴任。
 注2 飯田市の生まれ。細江町職員退職後エッセイストとして執筆の傍ら三遠山岳研究会を結成し地域研究に取り組む。三遠南信交流会コーディネーターなど多方面に活躍。遠州信濃会理事、平成15年飯田市遠州地域ふるさと大使に就任されるなど信州と遠州の橋渡しを務められている。
 注3 高森町の郷土史家。高森町文化財調査委員長、同文化財審議委員など歴任。著書に「歴史の風 中世地方国人の動向 信州松岡氏と遠州井伊氏」など。
 注4 村沢武夫著「飯田井伊家（飯田由緒旧家伝・上）」（昭和52年）など。
 注5 飯田城主小笠原秀政の正室福姫が菩提寺である峯高寺に葬られている。福姫の父は徳川家康の子信康、信康の母親は築山殿、築山殿の母親が直親の叔母で、直親と築山殿はいとことなり、福姫は井伊家の血筋になる（上記系図参照）。〔（南信州飯田観光ガイド2017）南信州新聞社より〕
 注6 平成29年1月9日放映（長野朝日放送でもネット）『三遠南信で発見！手つかずの絶景と直虎ゆかりの地』出演：SKE 48 鎌田菜月、中本賢、金子貴俊、篠山貴信、の番組。（メーテレHPより）

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）